

試行錯誤の先に

算数が得意で、算数オリンピックにも出場。私立最難関の中学校に合格した男の子の話。

算数パズルに小学校低学年の頃より通っていました。親からは、普通の塾では教えないようなテクニックを教えて欲しいという要望を聞いていました。そんなこともあり、時にはこちらも気合い入れて、「この問題は……」と鮮やかな解き方を伝えようとするのですが、ほぼ興味なし。よくて「ふ〜ん」といった返事が返ってくる程度。この生徒は「教えてもらう」ことを、まったくといっていいほど望んでいませんでした。問題が解けず悩んでいる姿を目にし、ヒントをあげようとする、「言わないで！」と言って怒り始めます。さらに悩んでいる時間が続き、私が近づいていくと「わかってる！わかってる！あっち行って！」となります。

また式を書くことも絶対に近いほどしません。学年が進み併行して通っていた大手進学塾の算数の先生からも何度となく指摘をされたようですが、私が知る限り、式を丁寧に書くという姿を見ることはありませんでした。

この生徒の特徴は、頭の中で整理出来る問題は頭の中で完結。頭の中で整理できないような場合、図にすることや線分図にして書くことを丁寧にやっています。教室のホワイトボードが大好きで（家でも勉強用に購入させられたとお母さんが話されていました。）図や線分図をボードいっぱい書いていきます。そしてある瞬間「わかった！」と解き方の糸口を見つけると、超高速の計算が始まります。その姿は、ドラマ『ガリレオ』の湯川教授を思わせるものでした。



式を書く意味は、問題の意図を数式にまとめ整理することにあります。この生徒にとって式にする作業は問題を解いていく上で必要としなかったのです。

「式をきちんと書きなさい」と教わってきた生徒は、きちんとした式が立てられなければ問題は解けないと思っています。ですが、本質は逆です。問題に提示された条件を整理していった結果、式が出来上がるのです。

考えに考え抜いた先、つまり試行錯誤の先に式があるのです。

教室の最大の指導目的は、『生徒自身がたくさん考えること』。来年もよりたくさん考える機会を提供できる教室でありたいと思っています。来年も引き続きよろしくお願いいたします。

教室の風景

脳科学の視点で考える

早いもので今年も残りわずかとなりましたが、みなさんはやり残したこと、ありませんか？

私は今、勉強していることがあるのですが、当初の予定では年内に試験までこぎ付けるつもりだったのに、始めてみると想像以上の手強さで断念することに(˘;引き続きゆっくり、じっくりと納得がいくまで取り組んでいきたいと思います。来年にはうれしい報告ができるように頑張りますね。

話は変わりますが最近、新聞ではノーベル物理学賞の「青色 LED」の話題がしきりに報じられています。画期的な発明をする人って、「どんな思考回路をしているんだろう？」って思いませんか？人の目を気にせずに周りとは違ったことに挑戦する、ということは、想像に難しくありません。

では、そのような考え方ができるような人になってもらうために、私たちにできることって何でしょうか？最近の脳の研究では自分で選んで決めることに効果があり、成功率もあがるという結果が出ているそうです。しかも、それによって失敗したとしてもやる気が削がれる恐れが低くなるといえます。

些細なことでも「自分で決めた」ということが自己肯定感につながり、やる気にスイッチが入っていくようです。

これをレッスンに応用するならば……上から働きかける「縦の関係」ではなく、子どもが自分でやろうとするのを少し上から見守る「斜めの関係」がいいとされています。そのためには「命令」や「否定」ではなく、「提案」する言葉を使うのがポイントだそうです。

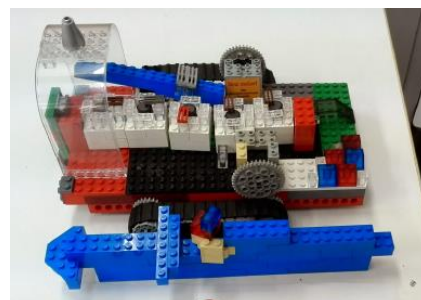
何かを提案するときには選択肢をあげて子どもに選んで決めさせる、そうすることでプライドを持たせることができ、自分で選んだことを口に出すということは行動に移しやすくなる効果もあるみたいですから、これからも意識していきたいことのひとつです。是非、ご家庭でも試してみてください。

寒い日が続いていますので体調には十分気をつけて、よいお年を迎えてくださいね。

来年もよろしくお祈りします(˘)♪

インストラクター 清水倫子

クリスマス作品発表会作品紹介



今年のクリスマス作品発表会は、『ケガをしてしまった“サンタさん”の代わりにプレゼントをくばってくれるもの』でした。
素敵な作品がたくさん発表されました。

